

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果から

平成 28 年 4 月に小学校 6 年生を対象に行った全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりましたので、ご報告させていただきます。この調査結果を踏まえ、引き続き教育活動の充実を図ってまいります。

《本校の調査結果》

(1) 教科学習状況調査の結果

- A 問題 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを見る問題
- B 問題 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかを見る問題

【 国語 】

A 問題の正答率は 74.0% で、神奈川県平均を 4% 上回っています。観点別に見ると、「話す・聞く能力」は 8% 上回っており、話し合ったり書いたりする際、目的や意図に応じて収集した情報を関係付けたり整理したりすることができている児童が多かったことが分かります。一方、ローマ字を書いたり読んだりすることについては、正答率が低いという結果が出ました。ローマ字で書いたり、調べ学習でパソコンを使う際にローマ字にふれたりする機会を意図的に増やす必要があると思われま

B 問題の正答率は 60% で、神奈川県平均を 2% 上回っています。目的に応じて質問したいことを整理する力や、活動報告文において課題を取り上げた効果をとらえる力を見る問題で正答率が高いという結果が出ました。

【 算数 】

A 問題の正答率は 80.1% で、神奈川県平均より 3.5% 上回っています。特に、示された場面を適切に読み取って立式する問題や、百分率で表す場面で基準量と比較量の間係をとらえる問題の正答率が高いことが分かります。

B 問題の正答率は 49.7% で、神奈川県平均より 2.4% 上回っています。示された説明を解釈し、そこで用いられている考えを別の場面に適用するという数学的思考方が定着してきていることが分かります。また、乗法や除法の式の意味を解釈する問題でも高い正答率が出ました。一方で、単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を判断し、特定する問題で正答率が低いことが分かりました。授業の中で正答を出すだけでなく、解決の方法や理由を説明する指導をていねいに行いたいと考えます。

(2) 児童質問紙調査結果

学習意欲、学習環境、学校生活、基本的な生活習慣、規範意識、地域との関わり、社会に対する興味・関心、将来に対する意識などに関する質問紙調査の結果です。

○国語、算数共に学習に対する意識は、全国・県の平均よりも高い傾向にあります。

○96%の児童が朝食を毎日食べていると回答しています。9割以上の児童が毎日同じくらいの時刻に起床・就寝していると回答しています。家庭での規則正しい習慣が身につけていることがわかります。就寝時刻が11時以降と答えている児童が15%と、全国・県の平均よりも多いのが心配です。

○全国・県の平均よりも多い88%の児童が「学校に行くのは楽しい」と答えています。また、99%の子ども達が「学校で友達に会うのは楽しい」と答えています。学校生活の中で、豊かな人間関係を育み、児童が充実感をもつことができるように支援を継続していきたいと思えます。

○98%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えています。また、85%の児童が「人が困っているときは、進んで助けています」と答えています。思いやりの気持ちを大切に支援していくとともに、望ましい関係づくりを指導していきたいと思えます。

○1日当たりのテレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをしたりする時間は、全国・県の平均時間よりも全体的に少ない傾向です。ご家庭での約束がしっかり守られていることの表れと思えます。一方で1日あたり4時間以上テレビ・携帯式などのゲーム機のゲームやインターネットをしていると回答している児童もいます。携帯電話やスマートフォンを持っている児童も増えているようなので、引き続き、携帯電話やスマートフォンの正しい使い方についての声掛けをよろしくお願いいたします。